

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	柏木保育園
代表者氏名（管理者）	園長 中川 朋美
法人名	社会福祉法人ひまわり会
定員（利用人数）	160名
施設・事業所所在地	滋賀県甲賀市水口町植440番地
T E L	0748-62-2770
F A X	0748-78-0606
電子メール	himawari13@shirt.ocn.ne.jp
ホームページアドレス	<a href="https://kashiwagi-hoikuen.jimdofree.com/">https://kashiwagi-hoikuen.jimdofree.com/</a>

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
評価実施期間	令和5年9月25日 令和5年9月26日

### 3 評価の概要

#### ○ 総合評価

社会福祉法人ひまわり会「柏木保育園」は、平成14年4月に水口町で最初の公設民営の保育園として開園しました。平成16年4月に「水口北保育園」も開園し、平成21年からは、民設民営保育園として運営しています。

園の保育理念である「子どもの最善の利益を守り、心身共に健やかに育つように努める」に基づき、子どもの主体性・自主性を尊重し、子ども自らが自発的に動けるように見守る保育が実践されています。また、地域に根差した保育園としての社会的役割を果たすため、保育園の専門性を活かした子育て支援や乳幼児などの保育相談、地域活動等へ積極的に参加しています。さらに、21世紀を担う「心身共にたくましい子ども」を育てるために、日々の保育を通じて人や自然と関わり心豊かに生き生きと生活する子どもを育む保育を実践しています。

#### ○ 特に評価の高い点

##### 1. 子どもの主体性の尊重と成長過程に沿った保育

柏木保育園では、子どもたちによる主体的な「遊び」を軸に保育に取り組んでいます。同じクラスの子ども同士や異年齢の子どもとのコミュニケーションを通じて社会的ルールを学び、みんなで協力して一つの作品を作る過程での学び等を、大事にしている様子が窺えました。夏祭りをテーマに、子どもたちが協力しながら工夫を凝らした屋台を作製したり、近所の散歩や遠足の時に採った昆虫や植物等を採取して、きれいに保管し観察・飼育するなど、子どもが自らやりたいこと、楽しいことなどを自分たちで選び取り組んでいく保育が行われています。

また、園は「食育」にも力を入れています。毎年「食育年間計画」を策定しておりその計画に基づき食に関する豊かな経験が出来、楽しく落ち着いた食事ができるように工夫しています。食材の下ごしらえや野菜の皮むき、園庭での菜園、クッキング等を通じて食への関心を高めています。

このような子どもの「主体性」を引き出す保育は、将来的な子どもの生きる力に結び付くと思われれます。

##### 2. 保護者とのコミュニケーションの充実

園は保護者への情報発信に様々な工夫をしています。ICTシステムや保育アプリ、ドキュメンテーションによる写真等の掲載、各種お便りなどによる情報提供、保護者研修や個別の保護者面談等により、子どもの成長に伴う課題や保護者の悩みを共有できるよう対応しています。登降園時の保護者との会話、日々の連絡帳の活用、玄関先の「ひまわりポスト」への投函等により、保護者との信頼関係を深めるよう配慮して

います。また、コミュニケーションから得た保護者の意向を保育実践に反映させています。保護者アンケートの自由記述欄コメントからも園の保育の取り組みへの感謝の言葉が多数読み取れました。

### **3. 職員の育成への取り組みと働きやすい職場環境**

園は内部研修において、毎月外部の大学教授を講師として招き、「発達に応じた、遊び込むための援助のあり方」をテーマとした年間研修を行っています。また職員は外部研修にも積極的に参加しています。園長経験者に保育アドバイザーとして保育現場に入ってもらい、職員が知識を吸収し活かす独自の取り組みを行っています。

研修についても、テーマ別研修に参加する機会を設け、職員一人ひとりがキャリアアップしていける仕組みを整えています。今回の職員ヒアリングからも、柏木保育園は相談しやすく、働きやすい職場だとの意見が聞き取れました。

「自分磨き手当」として年3,000円を支給する制度もあり、職員からも好評を得ています。

## **○ 改善を求められる点**

### **1. 園としての中・長期計画の策定**

柏木保育園として、5年後から10年先の園の目指すべき方向性やビジョンを明確にする必要があります。社会構造や保育園を取り巻く制度等が激しく変化していく時代ではありますが、園としての中・長期計画を策定され、それを地域住民や関係機関へアピールすることで、更なる地域に根差し、かつ認められる保育園になると考えます。

### **2. 地域との関係づくり**

園として既に整備されている地域との非常災害協力体制づくりだけでなく、地域に数多く点在する社会資源を活用した地域連携が必要です。ここ3年余りは、新型コロナウイルス感染防止のため各種行事等への地域の人たちの参加が叶わなかった時期でした。今後は地域の老人クラブ、ボランティアグループ等との交流や近隣の小学校や福祉関係団体との連携、防災のための地域住民を巻き込んだ避難訓練の実施、保護者との地域防災対策の話合いなど、積極的に災害に対する備えに取り組むことが重要です。

### **3. 必要なマニュアル類の整備**

法人が主体となって園運営に必要な規程やマニュアル類は概ね整備されています。

しかし、虐待対応マニュアルやボランティア受入れマニュアル、防災計画における行政や消防署・警察・自治会・関係福祉団体等との連携や合同訓練に関する協定などの文書等の策定が望まれます。

特に虐待対応マニュアルは早急な作成が必要です。更にマニュアルがあれば良いということではなく、日々の保育現場での課題を明確にして対応策や改善点を見直して行くためには、基準となるマニュアルの定期的な現場目線での見直しが重要だと考えます。

#### 4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

当園では、この数年、外部講師の力を借りながら保育内容の見直しに取り組んできました。今回の第三者評価において、その取り組みや見直した保育内容について高い評価をいただいたことは悩みながら取り組んできた職員にとっても自信につながるものと嬉しく思っています。高評価をいただいた他の項目と共に良い部分は大切にしながら、引き続きより良い保育を提供できるように努力していきます。

一方、改善を求められる点として三項目のご指摘をいただいています。なかなかこれまで手が回っていなかった部分ではありますが、今回の第三者評価受審を良いきっかけにして改善に努めていきます。

今後も子どもたち、保護者のみなさま、地域のみなさま、職員、一人ひとりを大事にできる保育園になれるよう努力します。